

▲ 特別史跡キトラ古墳 墓道部の調査

キトラ古墳は、高松塚古墳に次いで発見された飛鳥の終末期壁画古墳です。1983年の壁画発見以来、数度の調査を経て数々の発見がありましたが、それとともに壁画自体が相当危険な保存状態にあることもわかってきました。そこで、今後の保存処置をみすえ、文化庁文化財部記念物課の委託を受け、墓道部約15㎡を発掘調査しました。調査には、奈良県教育委員会（奈良県立橿原考古学研究所）と明日香村教育委員会、そして地元の協力をえました。

調査は、東西4m×東側南北5m・西側南北3mの調査区を設定しました。横口式石槨南壁までは約1.3mを隔てています。発掘調査の結果、盗掘坑と



キトラ古墳全景(南から)

墓道を確認しました。盗掘坑の規模は、調査区北壁で東西幅約3 m、深さ 1.5 mが、出土しました。

横口式石槨の南に位置する墓道は、古墳の墳丘盛土から掘り込まれ、幅約 2.5 m、調査区北辺での深さは 1.5 m。東側で 3.5 mの長さが残っていました。墓道の床面は、最も高い北側 0.3 mだけがほぼ水平で、それから南側は緩く南に傾斜します。墓道の下部は、堅い版築土で埋められていました。墓道の床面には、南北方向のコロのレール痕跡がみつかりました。埋土から土器片が出土しましたが時期は特定できません。
(飛鳥藤原宮跡発掘調査部)